

## 世界の 見方



ジェノサイド条約は国連総会で採択された初の人権条約だ。1948年12月9日の採択から今年で70年。約600万人のユダヤ人が殺害されたホロコーストを教訓にしたこの条約は、歴史に学び、歴史を繰り返さないという世界の国々の約束を象徴するものだ。

この約束は残念ながら、最も必要な時に果たされないことがあった。94年、約100日間で100万人近くが犠牲となったルワンダ大虐殺を我々は防げなかった。1年もたたないうちに、ボスニア・ヘルツェゴビナでスレブレニツァ大虐殺が起きた。国連平和維持軍も含め、国際社会は事態に向き合わなかった。

失敗を経て重要な進展もあった。98年、常設の国際刑事裁判所（ICC）の創設が決まった。その後、事務総長がジェノサイド防止担当の特別顧問を置いた。さらに2005年の国連首脳会合の成果文

ジェノサイド条約



正式名称は集団殺害罪の防止及び処罰に関する条約。集団殺害を「民族的、人種的、民族的、または宗教的な集団を破壊する意図をもって行われる行

アダマ・ディエン

国連ジェノサイド防止担当特別顧問

## 全加盟国 条約批准を

書は画期的だった。大量虐殺、戦争犯罪、民族浄化、人道に対する罪から市民を保護し、国家が自国民の保護に失敗した場合は、国連憲章に基づいた集団行動を取ることを約束した。「保護する責任」の原則と言われるものだ。

それでも中央アフリカ、イラク、ミャンマー、南スーダン、シリアなどで宗教や文化、身体的特徴を理由に犯罪の標的とされる人々がいる。我々は犯罪の兆候や防止策を知っているが、効果的な予防措置や、適切で断固とした行動を取ることができないでいる。

それはジェノサイド条約に欠陥があるからでなく、その潜在能力が十分発揮されていないためだ。批准国は現在149カ国で、日本を含む45の国連加盟国が未批准だ。世界から大量虐殺をなくすには全加盟国による条約批准が欠かせない。ジェノサイド条約は人権に関する姉妹条約や、ICCを定めたローマ規定と共に、歴史を繰り返さないために守るべき最も重要な法的基準だ。我々と将来の世代のために。 【訳・念佛明奈】

為一と定め、国際法上の犯罪と位置付けた。20世紀に起きた最悪の悲劇の一つとされる第二次世界大戦中のホロコースト（ナチスによるユダヤ人大量虐殺）など残虐行為に対する批判から生まれた。